

1K 一ノ瀬金属 株式会社

環境レポート | 2023



事業概要

商 号	有限会社 一ノ瀬金属
代 表 者	代表取締役 一ノ瀬眞明
所 在 地	(本社・倉庫) 神奈川県藤沢市辻堂神台二丁目6番31号
設 立	1974年4月23日
資 本 金	500万円
売 上 高	2.2億円 (2023年度)
従業員数	本社: 4名 廃棄物管理受託部門: 9名 計12名(兼務1名)
本社面積	敷地面積: 947.94㎡ 床面積: 323.83㎡
事業内容	産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬業、計量証明事業、古物商
収集運搬実績	1,182t/年 (2023年度)
処理料金	都度見積 (個別に相談致します)
環境管理責任者	取締役 一ノ瀬俊介
連 絡 先	TEL: 0466-36-5736 FAX: 0466-36-5870
事業年度	4月1日～翌3月31日

許認可

許可区分	許可地区	許可(登録)番号	許可年月日	有効年月日
産業廃棄物収集運搬業				
・産業廃棄物の収集運搬(積替・保管を除く)				
＜許可品目＞ 燃え殻、汚泥(※1※2)、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック類(※1※2)、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残さ、ゴムくず、金属くず(※2)、ガラス・ コンクリート・陶磁器くず(※1※2)、鋳さい、がれき類 (※1)、ばいじん ※1 石綿含有産業廃棄物を含む ※2 水銀使用製品産業廃棄物を含む	神奈川県	1403007343号	2022年6月1日	2027年5月31日
一般廃棄物収集運搬業				
・一般廃棄物の収集運搬(積替・保管を除く)	藤沢市	藤沢市許可第1号 2	2024年4月1日	2026年3月31日
計量証明事業				
・質量に係わる計量証明事業	神奈川県	第52号	1987年10月15日	
古物商		神奈川県公安委員会許可 第452665701010号	1982年2月4日	
再生資源回収事業者認定(日資連)		N14K-00380号	2024年3月16日	2027年3月17日
電子マニフェスト(JWセンター)		2025702	2016年7月22日	

■ 収集運搬車両一覧 ※画像は主な車両



脱着式コンテナ車 8 t



脱着式コンテナ車 4 t



脱着式コンテナ車 3 t



平ボディー車 8 t



パッカー車 4 t



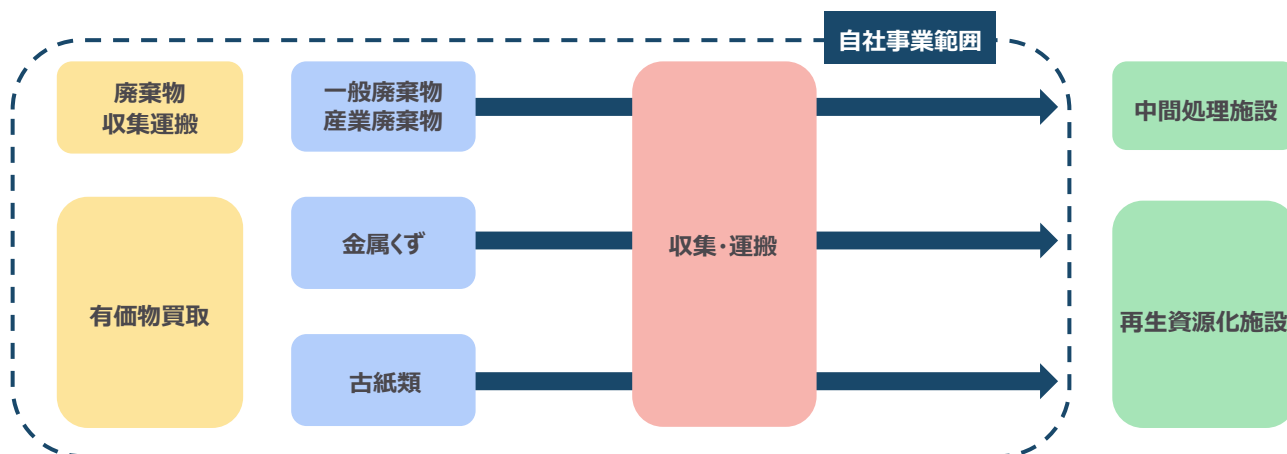
パッカー車 2 t

車種	最大積載量	長さ	幅	台数
脱着式コンテナ車 8 t	8,000kg	6,260mm	2,240mm	1
脱着式コンテナ車 4 t	3,800kg	6,080mm	2,200mm	2
脱着式コンテナ車 3 t	3,000kg	4,350mm	1,690mm	1
平ボディー車 8 t	6,800kg	7,620mm	2,370mm	2
平ボディー車 4 t	2,650kg	7,620mm	2,340mm	1
平ボディー車 2 t	2,000kg	4,690mm	1,690mm	1
パッカー車 4 t	2,450kg	6,670mm	2,180mm	2
パッカー車 2 t	2,000kg	5,210mm	1,850mm	1

■ その他車両・設備一覧

車種・設備	仕様等	台数
営業車	軽自動車	1
フォークリフト	ヒンジドフォーク 1.5 t	4
フォークリフト	全回転パレットフォーククランプ 2.5 t	4
トラックスケール	ロードセル式 30 t	1
剥線機	処理能力：1,200kg/h	1
磁選機	処理能力：500kg/h	1
切断機	処理能力：1,000kg/h	2
コンテナ	約8m ³	14

■ 処理工程図



■ 有資格者一覧

2024年6月現在

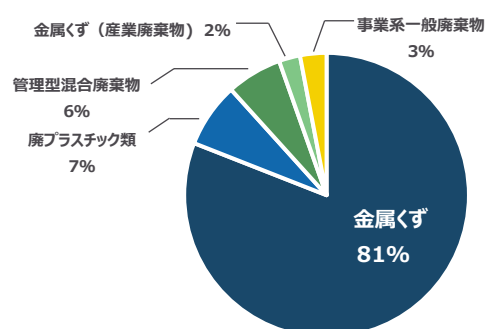
資格名	人数
大型自動車 運転免許	10人
大型特殊自動車 運転免許	9人
中型自動車 運転免許	2人
2級ディーゼル・ガソリン自動車 整備士	2人
危険物取扱者（乙2種）	3人
危険物取扱者（乙4種）	4人
床上操作式クレーン運転 技能講習	3人
小型移動式クレーン運転 技能講習	9人
玉掛 技能講習	9人
高所作業者運転 技能講習	7人
フォークリフト運転 技能講習	11人
ショベルローダー等運転 技能講習	1人
車両建設機械（整地・解体）運転 技能講習	6人
ガス溶接 技能講習	5人

資格名	人数
有機溶剤作業主任者 技能講習	8人
酸欠・硫化水素作業主任者 技能講習	1人
特化物・四アルキル鉛作業主任者 技能講習	5人
はい作業主任者 技能講習	6人
フルハーネス型墜落制止用器具作業	6人
アーク溶接 特別教育	5人
電気取扱者 特別教育	3人
自由研削砥石 特別教育	5人
粉じん作業 特別教育	11人
職長教育	9人
安全衛生推進者教育	8人
車両系荷役運搬機械等作業指揮者教育	8人
積卸し作業指揮者教育	3人
化学物質管理者	1人

■ 収集運搬重量 実績（2023年度）

品目（分類）	収集運搬重量
金属くず（再生資源）	957.37 t
廃プラスチック類（産業廃棄物）	86.80 t
管理型混合廃棄物（産業廃棄物）	74.41 t
金属くず（産業廃棄物）	28.48 t
事業系一般廃棄物	35.44 t
合計	1,182.50 t

表：収集運搬重量の品目毎の割合



環境経営方針

■環境理念

有限会社一ノ瀬金属は、「3 R（減量化、再利用、再資源化）への取組+α 1 R」の理念の元、当社の主要事業である廃棄物収集運搬業や廃棄物再生事業を通じ、貴重で有限な資源の再資源化を促進することによって環境負荷の低減に積極的に取り組みます。

また、SDGsの開発目標に寄与する具体的な取組を検討していき、環境・経済・社会面の課題に貢献できるよう真摯に向き合います。

■行動指針

- 1.環境関連法規制等、法令を遵守致します。
- 2.環境負荷の低減に取り組むために環境経営を継続的に改善し、以下を重点的・積極的に取り組みます。
 - （1）電力や、車両等の燃料消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - （2）廃棄物の削減
 - （3）水資源の適正使用による節水
 - （4）環境保全の為の社会貢献活動
 - （5）車両での収集運搬時の環境配慮
 - （6）人材育成

この環境方針を当社全ての従業員に周知します。

*「+α 1 R」…状況に応じ3 Rのみならず、更に1 Rの考えを持ち行動する方針



- 【 Refuse 】リフューズ：拒否
- 【 Repair 】リペア：修理
- 【 Refine 】リファイン：分別
- 【 Return 】リターン：返却
- 【 Rebuy 】リバイ：リユース品の購入
- 【 Regeneration 】リジェネレーション：再生品の使用

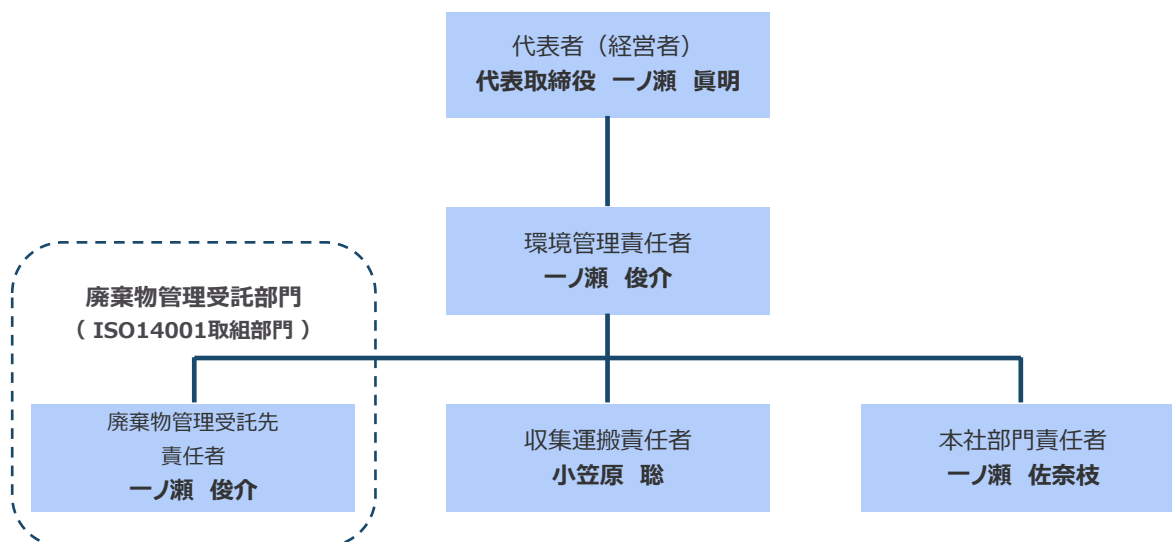
など

令和4年 4月21日

有限会社 一ノ瀬金属

代表取締役 一ノ瀬 眞 明

■ 環境経営実施体制（2023年度）



役 割	責 任・権 限
代表者	1. 全体統括 2. 経営における課題とチャンスの明確化 3. 環境方針の制定・全従業員への周知 4. 実施体制を構築し、役割、責任および権限を定め全従業員に周知する 5. 環境経営システムを運用し、維持するための経営資源を用意する 6. 全体の評価と見直し・指示 7. 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	1. 環境経営システムの構築と運用 2. 代表者への実績報告 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者 4. 環境活動レポートの作成・公表
部門責任者	1. 自部門に関連する環境活動計画の実施 2. 環境管理責任者への達成状況の報告
全従業員	1. 環境経営システムの教育・訓練への参加 2. 環境活動の推進

※ 対象範囲は廃棄物管理受託部門を除いた組織及び活動を対象とする。
 （廃棄物管理受託部門はISO14001取組の一員となっているため）

※ 環境活動レポートの対象期間及び発行日は当環境経営レポート表紙に記載

環境経営目標

環境経営目標項目		推進 責任者	単位 (CO2換算係数)	基準値 (2016年度～ 2018年度平均)	年度目標		
					2023年度	2024年度	2025年度
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減	一ノ瀬 (眞)	k w h (0.462)	3,300	3,069 基準値比 -7%	3,003 基準値比 -9%	2,937 基準値比 -11%
	ガス使用量の削減	一ノ瀬 (佐)	k g (3.06415)	16 (基準値は2017年度)	16 基準値比 ±0%	16 基準値比 ±0%	16 基準値比 ±0%
	ガソリン消費量削減 (営業車)	小笠原	ℓ (2.32166)	338	335 基準値比 -1%	331 基準値比 -2%	328 基準値比 -3%
	軽油消費量削減 (トラック等)		ℓ (2.62434)	13,620	燃料消費量の把握		
	収集運搬車両の 二酸化炭素排出量	一ノ瀬 (俊)	k g -CO2	35,744	二酸化炭素排出量の把握		
	収集運搬重量の把握		t	2,008	収集運搬量の把握		
	収集運搬量当たりの 二酸化炭素排出量の削減		CO2 / t	17.80	16.55 基準値比 -7%	16.20 基準値比 -9%	15.84 基準値比 -11%
	二酸化炭素排出量総計		k g -CO2	23,232.5 (基準値は2020年度～ 2021年度平均)	22,768 基準値比 -2%	22,536 基準値比 -3%	22,303 基準値比 -4%
廃 棄 物 の 削 減	一般廃棄物排出量の削減 (再生資源物は除く)	一ノ瀬 (眞)	k g	57 (基準値は2017年度)	53 基準値比 -7%	52 基準値比 -9%	51 基準値比 -11%
	再生資源物排出量の把握			92 (基準値は2017年度)	排出量の把握		
	産業廃棄物排出量の削減			0	排出量の把握・適正処理		
水使用量の削減		一ノ瀬 (俊)	m ³	61 (基準値は2020年度)	59 基準値比 -3%	59 基準値比 -4%	58 基準値比 -5%
社 会 貢 献 活 動	本社敷地隣接歩道の清掃	一ノ瀬 (眞)	実施回数	1回 / 就業日	1回 / 就業日		
	地域の環境啓発活動の参加			2回以上 / 年	2回以上 / 年		
環 境 配 慮	車両での収集運搬時の 環境配慮	一ノ瀬 (俊)	実施回数	2項目以上 / 年	2項目以上 / 年		

※ 1 電力使用量の二酸化炭素排出係数は、2017年度の電気事業者別実排出係数の東京電力（株）排出係数0.462kg-CO2を用いた。

※ 2 化学物質の使用はありません。

環境経営目標の実績

環境経営目標項目		単位 (CO2換算係数)	基準値 (2016年度～ 2018年度平均)	2023年度 目 標	2023年度 実 績	評価
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減	k w h (0.462)	3,300	3,069 基準値比 -7%	2,304	○
	ガス使用量の削減	k g (3.06415)	16 (基準値は2017年度)	16 基準値比 ±0%	2.52	○
	ガソリン消費量削減 (営業車)	ℓ (2.32166)	338	335 基準値比 -1%	192.2	○
	軽油消費量削減 (トラック等)	ℓ (2.62434)	13,620	燃料消費量の把握	6,050	○
	収集運搬車両の 二酸化炭素排出量	k g -CO2	35,744	CO2排出量の 把握	15,877	○
	収集運搬重量の把握	t	2,008	収集運搬量の把握	1,183	○
	収集運搬量当たりの 二酸化炭素排出量の削減	CO2 / t	17.80	16.55 基準値比 -7%	13.43	○
	二酸化炭素排出量総計	k g -CO2	23,232.5 (基準値は2020年度～ 2021年度平均)	22,768 基準値比 -2%	17,396	○
	一般廃棄物排出量の削減 (再生資源物は除く)	k g	57 (基準値は2017年度)	53 基準値比 -7%	9.9	○
廃 棄 物 の 削 減	再生資源物排出量の把握		92 (基準値は2017年度)	排出量の把握	64.0	○
	産業廃棄物排出量の削減		0	排出量の把握・ 適正処理	0	○
水使用量の削減		m	61 (基準値は2020年度)	59 基準値比 -3%	46.0	○
社 会 貢 献 活 動	本社敷地隣接歩道の清掃	実施回数	1回 / 就業日	1回/就業日	1回/就業日	○
	地域の環境啓発活動の参加		2回以上 / 年	2回以上/年	1回/年	△
環 境 配 慮	車両での収集運搬時の 環境配慮	実施回数	2項目以上 / 年	2項目以上/年	2項目以上/年	○

■ 環境活動計画と実施した取組内容とその評価及び次年度の環境経営計画

二酸化炭素

電力使用量の削減

目標：電力使用量削減 **-7%** 評価：  達成率： **133%**

取組内容

- ・ 昼休み・不在時の消灯（点検表による管理）
- ・ 空調機温度の適温化（推奨温度の掲示）
- ・ パソコン未使用時の電源OFF
- ・ 業務用空調機の定期点検

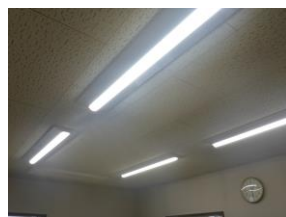
取組結果の評価

昨年より電力使用量を削減し、目標達成出来た。
過度な空調使用を抑え、月次での目標も1年を通し達成できた。



次年度の環境経営計画

今年度取り組んだ内容を継続しつつ、恒常化できる新たな活動を模索し取組を充実させ電力の使用量の削減を行っていきたい。



LED化（昼休み・不在時は消灯）



空調の適温化

二酸化炭素

ガス使用量の削減

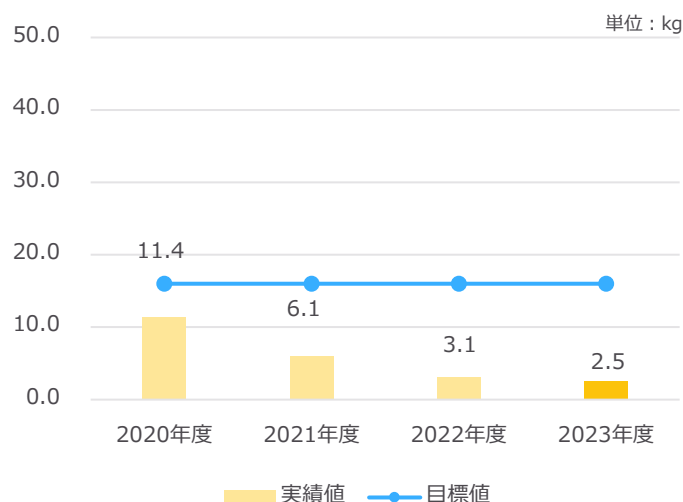
目標：ガス使用量削減 **±0%** 評価：  達成率： **640%**

取組内容

- ・ 夏場の使用を抑える
- ・ 注意喚起表示

取組結果の評価

主に給湯時の使用で使用量が少ないが給湯温度の調整や節水に取り組んだ。主に冬場で使用している。
冬場であっても使用量を抑えられており、注意喚起表示の効果はあり昨年度比20%減となった。



次年度の環境経営計画

気候によって左右されたり、数値的な削減の限界値にはきてはいるが引き続き活動し、削減に取り組んでいきたい。



節水・給湯温度調整表示

二酸化炭素

ガソリン消費量の削減

目標：ガソリン消費量削減 **-1%** 評価：



達成率：**174%**

取組内容

- ・ エコドライブの推進
- ・ 車両の空調適正使用
- ・ エコドライブ推進員によるエコドライブの促進

取組結果の評価

消費量は昨年度比35%減となった。

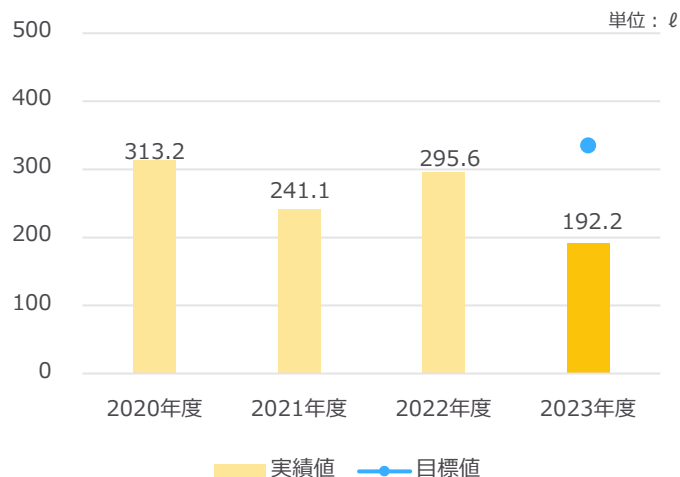
新規配属者に対してエコドライブ実施手順書をもとに教育を行った。

エコドライブ推進員による燃費実績の報告や

エコドライブ促進ポスターを掲示しエコドライブを推進した。

次年度の環境経営計画

今年度の取組内容を生かし、定期的にはエコドライブの呼びかけを行いドライバーの意識向上を深めていく。



エコドライブ促進ポスター



車両 燃費実績報告

二酸化炭素

軽油消費量の削減

目標：軽油消費量の把握

評価：



達成率：**100%**

取組内容

- ・ エコドライブの推進
- ・ 車両の空調適正使用
- ・ エコドライブ推進員によるエコドライブの促進

取組結果の評価

消費量は昨年度比10%減となった。

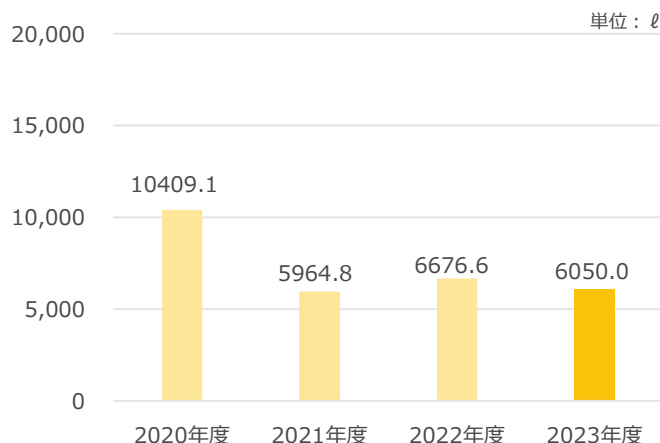
ガソリン車両と同様に新規配属者への教育訓練や

エコドライブ推進員による燃費実績の報告を行った。

また新型車両に搭載されたオートクルーズ機能の使用方法的な教育を行い、積極的に活用した。昨年度同様、夏期の過度な空調使用を抑える等、削減に取り組んだ。

次年度の環境経営計画

ガソリン車両と同様に定期的にはエコドライブの呼びかけを行いドライバーのエコドライブ意識向上を深めていく。



車両 空調適正使用表示



オートクルーズ使用方法的な教育

運搬量当たりの二酸化炭素排出量の削減

目標：二酸化炭素排出量の削減 **-7%** 評価：  達成率： **123%**

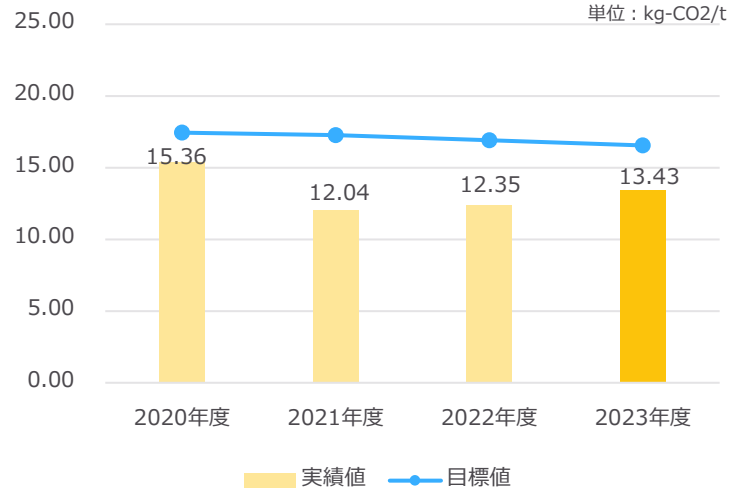
取組内容

- ・ 収集運搬量の把握
- ・ 収集運搬量当たりの二酸化炭素排出量の削減

取組結果の評価

今年度は基準値の-7%を目標値として引き上げ取り組んだ。
昨年度比で収集運搬量当たりの排出量は微増となったが目標は達成できた。

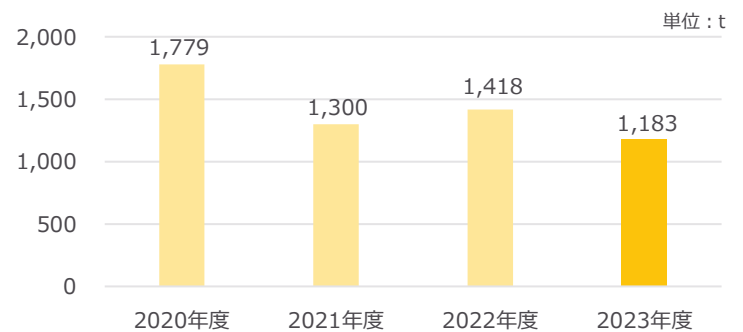
表：運搬量当たりの二酸化炭素排出量の実績



次年度の環境経営計画

継続して更なる改善を進めていくが、数値目標は現状の取扱量に合わせていく。
重量物の運搬時もエコドライブならびに安全運転を行い積極的に削減に取り組んでいく。

表：運搬量の実績



二酸化炭素総排出量の削減

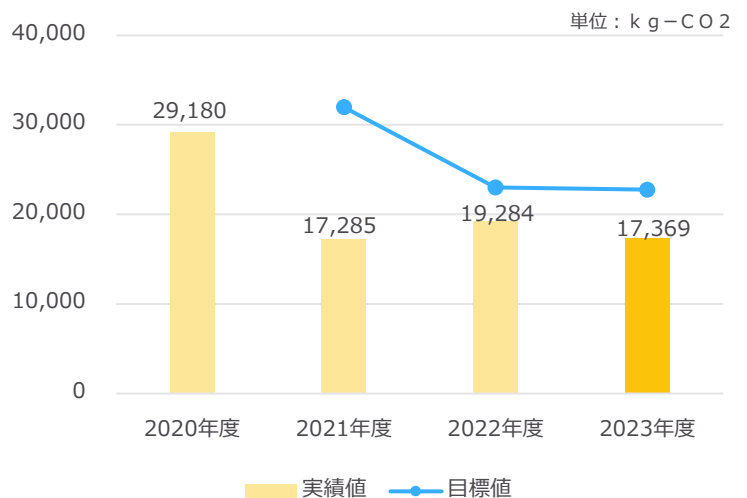
目標：二酸化炭素総排出量の削減 **-2%** 評価：  達成率： **131%**

取組内容

- ・ 二酸化炭素総排出量の削減
- ・ 二酸化炭素総排出量の把握

取組結果の評価

今年度は基準値の-2%を目標値として引き上げ取り組み、目標達成できた。
排出量は昨年度比10%減となった。



次年度の環境経営計画

活動内容としては継続して取り組んでいく。
設定した中長期目標を継続し削減に努めていく。

廃棄物の削減

目標：一般廃棄物・産業廃棄物の削減、再生資源物排出量の把握

評価：



達成率：530%

取組内容

- ・ 分別徹底による資源物の増加
- ・ プレビュー確認による印刷ミス削減
- ・ 電子データ化による紙使用量の削減
- ・ 排出量の把握
- ・ 適正処理

取組結果の評価

事務所から排出される一般廃棄物は昨年度比20%減となり、目標は例年通り達成できた。

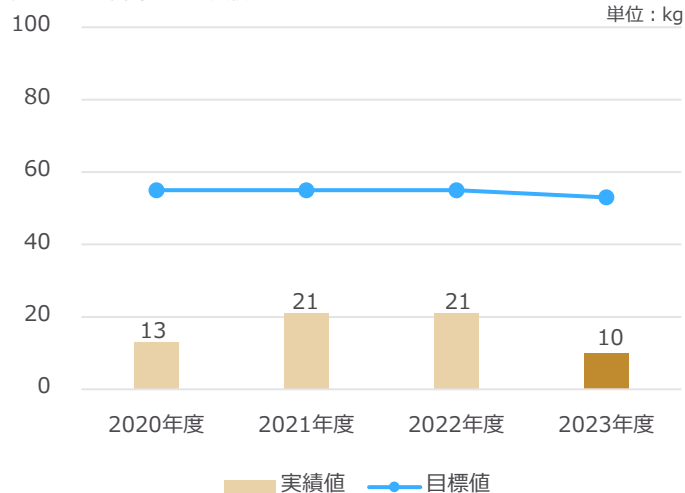
紙媒体の電子化を進め、タブレット端末を用いた作業日報や回覧文書の電子化、FAXのペーパーレス受信などを取り入れた。

次年度の環境経営計画

廃棄物は印刷紙が占める割合が大きい。

今年度取り入れた文書の電子化を推し進めていく。

表：一般廃棄物排出量の実績



ごみの適正分別



タブレット端末を用いた作業日報報告

水使用量の削減

目標：水使用量削減 -3%

評価：



達成率：128%

取組内容

- ・ 節水（節水表示）
- ・ 高圧洗浄機による洗車時の節水

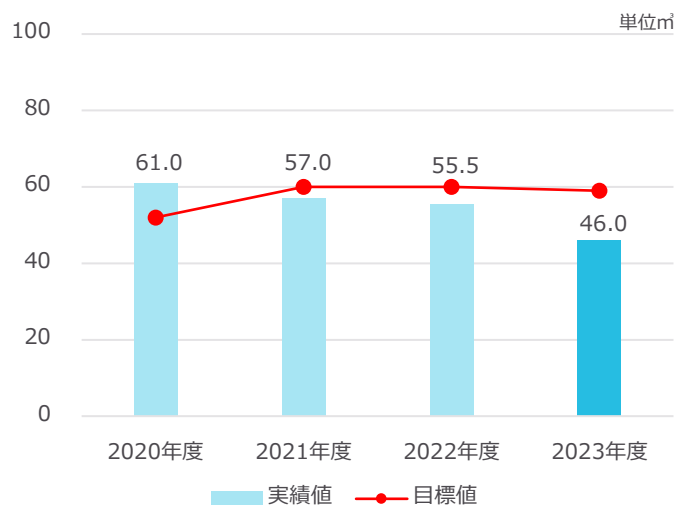
取組結果の評価

使用量は昨年度比17%減となった。

昨年、一昨年に引き続き目標も達成できた。

次年度の環境経営計画

現状の衛生対策を行いつつ日常の水使用の節水を心がけ継続して取り組んでいきたい。



蛇口の節水表示

社会貢献活動

目標：敷地隣接歩道の清掃、地域環境啓発活動の参加

評価： 

取組内容

- ・ 敷地隣接歩道の清掃
- ・ 地域環境啓発活動の参加

取組結果の評価

敷地隣接歩道の清掃

本社敷地に隣接している歩道を就業日毎、清掃しています。
また駐車場も定期的に清掃しております。
歩行者・自転車の往来が多いので注意して作業いたしました。



敷地隣接歩道の清掃

地域環境啓発活動の参加

クリーンキャンペーンは昨年に引き続き2年連続で参加いたしました。
海洋プラスチック問題が世界規模で環境問題となっている昨今、
環境保護に少しでも貢献できるよう今後も積極的に参加していきたいと思いをします。



クリーンキャンペーンの参加

次年度の環境経営計画

今年度同様、環境啓発活動や社会貢献活動に
可能なかぎり積極的に参加していきます。

環境配慮

目標：車両収集運搬時の環境配慮及びサービスの改善

評価： 

取組内容

- ・ 安全運転に関する講習および道路標識クイズの実施
- ・ 収集運搬時の事故対応教育の実施

取組結果の評価

安全運転管理者による講習（道路標識クイズ）

安全運転管理者講習の内容を基に安全運転教育を行った。また動画を用いて
道路標識に関するクイズを行い、全員がより安全運転知識を
身につけることができた。



道路標識クイズ

収集運搬時の事故対応教育の実施

収集運搬時の事故対応教育を行った。
今年度新たに交通事故と車両事故（落下・火災）に対応する手順書を作成し、
全社員に周知した。また手順書を基に事故発生時対応の実地教育を行い、
安全意識の向上と緊急時の対応能力の向上を図った。



収集運搬時の事故対応教育の実施

次年度の環境経営計画

今年度の講習内容を生かし運転技術やマナーを向上させていきます。
年々教育を充実させ、全社員のレベルアップを図ってまいります。

環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等の遵守状況の確認、評価

当社に適用される環境関連法規は下記のとおりです。環境関連法規の遵守状況を確認した結果、問題ありませんでした。

また、関係機関からの違反の指摘、指導及び利害関係者からの訴訟はこれまでありませんでした。

遵守状況の確認は2024年4月29日に環境管理責任者とともに行った。

区分	環境関連法規等名称	当社該当事項	遵守状況
廃棄物	廃棄物処理法（産業廃棄物の処理）	産業廃棄物の処理委託	○
	廃棄物処理法（産業廃棄物の収集運搬）	産業廃棄物の収集運搬業	○
	廃棄物処理法（廃棄物再生事業者登録）	廃棄物の再生事業	○
	廃棄物処理法（一般廃棄物の処理）	一般廃棄物の処理委託	○
	廃棄物処理法（一般廃棄物の収集運搬）	一般廃棄物の収集運搬業	○
	藤沢市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（一般廃棄物の排出）	一般廃棄物の処理	○
	藤沢市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（一般廃棄物の収集運搬）	一般廃棄物の収集運搬業	○
資源循環	家電リサイクル法	家電4品目の適正処分	○
	小型家電リサイクル法	小型家電リサイクル品の適正処分	○
	循環型社会形成推進基本法	循環資源のリサイクル	○
	資源有効利用促進法	3Rの促進	○
	自動車リサイクル法	自治体に登録された引取業者への廃車の引渡し	○
大気汚染	自動車NOx・PM法	自動車排出ガスの抑制	○
	神奈川県生活環境の保全等に関する条例	自動車排出ガスの抑制	○
環境配慮	グリーン購入法	グリーン購入法適合商品の購入	○
温暖化防止	フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理	○

確認日

2024年4月29日

■ 代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営方針	変更なし。人材育成強化は継続して行っていると実感している。
環境経営目標	地域環境啓発活動の参加が目標達成できなかった。 次年度は様々な形の環境啓発活動に参加していきたい。
環境経営実施体制	変更なし。
環境活動計画	恒常化し有効性がある取組は継続させるが項目によっては更なるステップアップした取組ができる余地がある。 全社員での環境意識の向上を推進させていく。
環境経営システム	従来のマネジメントシステムは機能している。この運用を維持しつつ長期ビジョンの視点にたってサステナビリティ経営を模索していく。

■ 代表者メッセージ

2024年3月、当社はエコアクション 2 1（以下EA21）の認証・登録から10年を迎えました。

この10年間、EA21マネジメントシステムを通じ様々な成長を感じています。

環境負荷低減の取組は勿論のこと経営面においては2017年版ガイドラインに対応した取組を行い、経費の削減や企業価値の向上に繋がっていると実感しております。

そして2024年4月23日、当社は設立50周年を迎え、更なる50年への持続的な成長に向け新たに経営理念を制定いたしました。

「地球に目配り 社会に気配り チームに心配り」という使命を掲げ、日々邁進しております。

日々関わりあう環境、社会、ステークホルダーなど全てに対し配慮＝相手に寄り添った心づかいを持ち、

適正・確実・安全を軸とした信頼性のあるサービスの提供を怠らないこと。それが私たちの使命です。

そして、「好循環みなぎる社会を創る」という当社の存在意義を果たすため引き続きサステナビリティ経営を強化していきます。

経営戦略の軸となる自律型人材の育成－主体的かつ能動的に行動し、互いに学び合う文化を組織として根付かせ

企業としての存在価値を更に高めていきます。

また、SDGsの開発目標に寄与する具体的な取組を検討していき、環境・社会面の課題に少しでも貢献できるよう

真摯に向き合ってまいります。

代表取締役 一ノ瀬眞明



当社は2024年4月23日、法人設立50周年を迎えました



運用期間：令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

発行：令和 6 年 7 月 11 日

登録年度：平成 26 年 3 月

